

深谷のまちづくりとホフマン輪窯6号窯の活用について

1. 目的

国指定重要文化財・日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設は、ホフマン輪窯6号窯・旧事務所（日本煉瓦史料館）・旧変電室・備前渠鉄橋から構成され、深谷のみならず日本の歴史を語る上で欠かすことのできない近代化遺産である。中でもホフマン輪窯6号窯は、日本全国に4基しか残っていないホフマン輪窯の一つで、最も大規模で遺存状態が良い。東京駅など多くの近代煉瓦建造物に使用されている煉瓦を焼いた窯であり、深谷市随一の文化財である。

この文化財を保存し後世に伝えるため、そして、現代の人々にも親しまれる活きた文化財にすることを目的に、保存活用のための事業を進めている。

2. 現状

ホフマン輪窯6号窯は、平成19年に旧事務所・旧変電室とともに深谷市に寄附され、現在は旧事務所と旧変電室について、土日曜日のみ公開を行っている。旧変電室については、東日本大震災時に損傷を受けた際、修理を実施したが、ホフマン輪窯6号窯と旧事務所については、劣化が著しく、根本的な修理が必要な状況であった。また、遊歩道の一部となっている備前渠鉄橋についても、一部修理が必要な状況である。

そのため、平成25～26年度に保存活用計画を策定し、平成27～28年度に調査工事（掘削などの工事を伴う調査）を実施し、平成30年度から保存修理工事を実施している。

現在は、ホフマン輪窯6号窯の保存修理工事を行いながら、展示等の活用について計画を策定しているところである。

3. 保存修理工事の概要

ホフマン輪窯6号窯の保存修理工事については、平成30年度に着手してから、仮設工事や補修工事、並びに調査及び設計監理等を行ってきた。今年度より、耐震補強工事に着手し、令和6年度中の完成を目指している。

ホフマン輪窯耐震補強の先行事例は、栃木県野木町のホフマン輪窯が唯一であり、そこでは窯内部に鉄骨補強を施している。しかし、外観が特徴的な野木町のホフマン輪窯に対し、深谷市のホフマン輪窯は窯の内部に最大の魅力がある。そこで窯の内部空間を極力活かすために、窯の外側に鉄骨を組んで補強することとした。なお、令和6年度上期に予定されている新一万円札発行に合わせて一部公開することを目指し、工事を進めている。

ホフマン輪窯6号窯の保存修理工事が完了した後、令和7年度以降、旧事務所と備前渠鉄橋の保存修理工事を行っていく予定である。

4. 活用計画の概要

この文化財を公開し、文化財としての価値や魅力を発信するだけでなく、市内外からの集客ができる魅力的な展示公開施設とするための計画を策定し、今後整備を計画している。

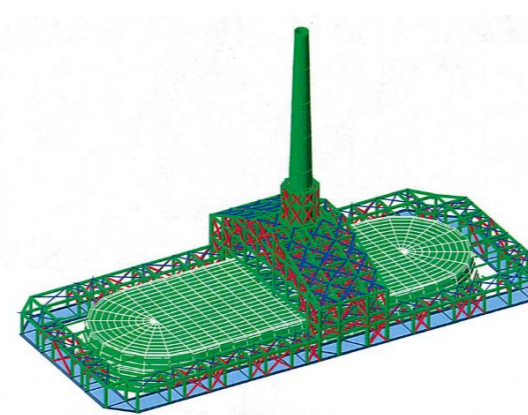
ホフマン輪窯6号窯については、耐震補強により、内部のほぼ全体が公開できるようになるため、主に内部空間を活かした展示活用を行う。映像や音などを用いた演出による体験的な展示構成を検討している。

また、ホフマン輪窯に隣接して新たに管理活用棟を設置し、棟内には輪窯を紹介する映像を流すシアターを設けガイダンス機能をもたせるとともに厨房を設け、窯内でも飲食ができる整備を検討している。

5. 協議事項

(1) 展示公開施設としての活用（学校教育や生涯学習など）

(2) 深谷のまちづくり・地域活性化のための活用（観光や市内周遊など）



ホフマン輪窯6号窯の補強イメージ



【参考】野木町のホフマン輪窯